

授業科目	憲法演習
演習題目	憲法学の世界
担当教員	南野 森
授業の目的	<p>憲法学を勉強することを通じて、「強い頭」を作ることが一番の目標です。時間的・心理的余裕のある学部生時代に、良質の論文や判決文をじっくり読み、考え、議論しておくことが、将来どのような方向に進むにせよ、重要だと思います。</p> <p>社会に出れば on the job training で仕事に必要なノウハウや知識はどんどん学ぶことになります。学生時代には、そのような、すぐに必要ですぐに役立つ知識や技能ではなく、じっくりと腰を落ちつけて、法的なものの考え方や多様なものの見方・価値観、仲間との議論を通じて自己の知見を深める技能、また、他者を説得するための丁寧さ・根気強さ、そして総合的な人間力・人当たりの良さといった、大学時代にしか学べないものの、社会に出れば必須となる能力を磨くことにこそ、意識して努力をしてほしいと思います。それは必ず、将来プラスになって自分に返ってきます。</p> <p>また、南野ゼミでは、ゼミ本来の活動に限らず、課外活動（コンパ・ゼミ同窓会・東京研修旅行・他大学とのディベート合宿など）への積極的な参加等により、（ゼミ卒業生や担当教員も含む）ゼミメンバー同士の親睦を深めることと、ゼミ生の「世界」を広げ「人間的魅力」を高めることをも目標とします（ただし、課外活動への参加は義務ではなく、それに参加できなかったからといって成績評価が下がることは一切ありませんし、参加費用の補助もあります）。</p> <p>2025年度のゼミの例でいうと、前期は、お互い打ち解けるようにとの趣旨でゼミ後に完全自由参加の少人数コンパ（西新や天神）や食事会（周船寺や学研）が比較的多くありましたが、8月の九重合宿や9月のディベート合宿を経て、後期はもはや「お互い打ち解ける」という必要もなくなるため、ゼミ後の食事会やコンパはほとんどなく、ゼミ後はすぐに解散することが多いです（学生だけで集まっているかどうかは私は知りません）。そもそも、コンパや食事会は学生の希望があればやる、なければやらない、というスタンスですので、求める人には対応しますが求めない人には強要もしないので、完全自由だと思ってください。東京研修旅行は2026年1月に実施する予定です。</p> <p>大学は「出会いの場」です。在学中に、人と出会い、知と出会い、自分の世界を広げておくことを一所懸命に追求してほしいと思います。</p>
履修条件	とくにありませんが、楽しみながらも真面目に勉強したいと思っている人が望ましいです。これまで学業成績の面で必ずしも「順調」ではな

	<p>かった人や、大学生活の面で必ずしも「充実」させられなかった人でも、心機一転、これから「新しい自分」になるべく頑張ろうというやる気さえあれば、大歓迎です。もともと社交的な人はもちろんですが、これから社交性を高めたいと思っている人も歓迎します。</p> <p>なお、ゼミ生の進路はバラバラです（それが当ゼミの良いところでもあると思います）。国家公務員・地方公務員、予備試験・法科大学院、研究者養成大学院、マスコミ、そして実に様々な民間企業など、200名を超える当ゼミの卒業生は、とても多様な方面に進んでいます（「南野ゼミのHP」でゼミ卒業生の進路一覧を公開しています）。したがって現時点でまだ進路を決めていない人も、当然ながら、歓迎します。多様な職種にいるゼミ卒業生を紹介することもできるので、進路・就活の相談に乗ってもらえると思います。また、東京研修旅行や卒業生とのコンパなどで「人と出会い」、将来の進路を決める（変える）学生もいます。</p>
<p>教科書・参考書</p>	<p>各回のゼミ報告のテーマに応じた参考文献は、適宜指示・配布します。</p> <p>憲法学の一通りの議論を理解している自信のない者は、開講までに（春休み中にでも）定評ある体系書を通読しておくことを勧めます。たとえば、樋口陽一『憲法〔第5版〕』（勁草書房）や、長谷部恭男『憲法〔第8版〕』（新世社）、小島慎司『憲法』（新世社）が良いでしょう。</p> <p>例の『憲法主義』（PHP研究所、PHP文庫版もあります）は、ざっとでも通読しておいてほしいです。ああ見えて、意外に深くて良い本ですので（笑）。</p>
<p>授業の計画・内容</p>	<p>春休み中、初回までにゼミ生と相談して決定します。ゼミ生の数によりますが、15人程度であれば、最初の数回を複数メンバーでのグループ報告とし、残りの回は、毎回一人ずつ好きなテーマで個人報告をしてもらうことにしています。</p> <p>2025年度の第23期ゼミは定員いっぱいの17人（+オブザーバー参加1名）でしたので、前期の冒頭に4～5人のグループによる報告を2巡し（1巡目と2巡目とではグループの構成を異なるものにして、自然と知り合いを増やせるようにしますし、また、4年生と3年生の混合でグループを作るので、4年生が、ゼミ報告の準備の仕方などを優しくアドバイスしてくれるはずです。これも当ゼミが工夫を凝らしている点の一つで、このグループ報告を経ることで、ゼミ内のタテとヨコに知り合いが増え、ゼミでの勉強の仕方が無理なく学べるようになります）、グループ報告が2巡したあと、個人報告を1巡することにしました。</p> <p>テーマ選びもレジュメの作成も一人で行う個人報告は、孤独な準備と</p>

思索、そしてプレッシャーとの闘いが苦しいかもしれません。しかし、自由気ままに自分の好きなテーマを徹底して勉強することができるという魅力もあります（報告後に、さらに研究を深め、それを論文等にまとめる人もいます）し、当ゼミは、毎回全員が必ず1回は発言することになっているので、自分の研究報告について、ゼミ仲間がどのような感想や疑問を持ってくれたのかを知ることができ、それも喜びにつながります。

グループ報告は、必ずしも自分のやりたいテーマではないテーマを扱うことになるかもしれませんが、新しくゼミメンバーとなった人々と一緒に（できるだけ元々の知り合いではない学生同士が学年を超えてグループになるよう、私が工夫してグループを作ります）一つのテーマを学ぶことで、「人と出会う」きっかけにもなり、他人と協調して一つの成果を作り上げることを学ぶチャンスともなります（社会に出ると至る所で求められる能力の一つです）。全く知り合いではなかった人とたまたまグループが同じになり、その結果、大親友になって卒業してからも仲良くしている、という話もよくあります（ですから、知り合いや友達のあまりいない人も心配せず、一人で飛び込んできてください。すでに仲の良い友だちと「徒党」を組んで同じゼミに入ろうとする人もいるかもしれませんが、せっかくの新しい出会いを増やす機会がそれでは無駄になってしまい、もったいないと思います）。

いずれにせよ、当ゼミは、ゼミとして統一的な研究テーマを設けるわけではなく、広い意味で憲法に関わるものであれば、各自が好きなことを勉強・報告できるのが一つの特長だと思います。憲法は、他の科目との関わりがもともと多い科目であり、たとえば、行政法や国際法、刑法や民法、刑事訴訟法や民事訴訟法、政治学や文化・芸術学、思想史や法制史、法哲学や法社会学などに関心がある場合、それと憲法をうまく関連づければ立派な研究テーマになると思います。そのうえで、各自の選ぶテーマについては、事件や判決を素材とするもよし、学説や論点を素材とするもよし、あるいは現実の社会問題・政治課題を素材とするもよし、です。なお、テーマの最終的な決定は、担当学生と教員が相談して決定します。

過去のゼミ生がどのようなテーマでゼミ報告を行ってきたかを知りたい場合は、「南野ゼミのHP」から各期の「ゼミ風景レポート」を見て下さい（歴代のゼミ生が書き続けてきた毎回の「ゼミ風景レポート」も当ゼミの「財産」の一つです。あまり書いてくれないゼミ生もいますが、これからも続けたいと思っています）。

参加者は、初回までに、報告しようとするテーマ（案）を（少なくとも1、2つ程度）考えておくことが望ましいです。春休み中のテーマ選び、憲法学習のための参考書として、たとえば次のようなものを使ってみると良いかもしれません。

	<p>1) 大石＝石川（編）『憲法の争点』（有斐閣、2008年）</p> <p>2) 安西ほか『憲法学の現代的論点〔第2版〕』（有斐閣、2009年）</p> <p>3) 穴戸＝林（編）『総点検 日本国憲法の70年』（岩波書店、2018年）</p> <p>4) 山本＝横大道（編）『憲法学の現在地』（日本評論社、2020年）</p>
<p>成績評価の方法</p>	<p>平常点によります。無断欠席をした者には、それ以降の参加を認めません（単位も認定しません）。休まざるをえない場合は、事前に連絡し許可を取ってください（例年、部活や就活、病気や家庭の事情等で欠席せざるを得ない学生も当然いますので、心配無用です）。</p> <p>また、初回コンパ・最終回コンパ・ゼミ同窓会の計3回だけは原則として出席を必須としますが、それ以外の課外活動への出席は完全自由です。その出欠が成績評価に影響することはありません。</p> <p>ただ、2008年度第6期ゼミから（コロナ禍により課外活動を中止した2020年度、2021年度を除き）毎年続けてきた①「東京研修旅行」（最高裁や官庁・企業・マスコミ・弁護士事務所・国会など、ゼミ生の進路・希望に合わせた施設等を訪問します。2024年度は12月に、参議院予算委員会傍聴、衆議院法務委員会傍聴、国会議員との面談のほか、参議院法制局、最高裁判所（宇賀克也裁判官訪問）、法務省、NHKなどを訪問しました。2025年度は1月上旬に実施予定）と、②「ディベート合宿」（毎年、一橋法・早稲田法・慶應法の憲法ゼミの学生70～100名ほどが参加、2025年度は9月に伊豆で実施）には、とても貴重な経験になること請け合いですので、是非積極的に参加してほしいと思っています。</p> <p>また、夏に「九重合宿」、年度末に「ゼミ旅行」という、純粋な親睦目的の企画を実施することもあります（ここ数年はいずれもありませんでしたが、2025年度は、8月に1泊2日の九重合宿を実施しました）。</p> <p>なお、金銭的な理由だけで課外活動に参加ができないメンバーがいるという事態は絶対に避けたいので、「出世払い」で教員が必要な費用を貸すこともあります。金銭的な負担を心配する必要はありません。</p> <p>第24期南野ゼミも、多様なメンバーで楽しく、真面目に、盛り上がっていきたいと思います。</p>